



平成25年11月14日

各位

株式会社雪国まいたけ  
代表取締役社長 大平 喜信  
(コード番号 1378 東証第2部)  
問合せ先 取締役兼執行役員  
管理本部長 吉川 博志  
(TEL. 025-778-0111)

**(訂正) 「平成25年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」  
の一部訂正について**

平成25年2月8日付「平成25年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」について訂正がありましたのでお知らせいたします。

1. 訂正の経緯

訂正の経緯につきましては、平成25年10月25日付「不適切な会計処理が行われていた可能性についてのお知らせ」および平成25年11月5日付「社内調査委員会の調査報告書の受領及び当社の対応について」にて開示しておりますので、ご参照ください。

2. 訂正内容

訂正箇所には下線を付して表示しております。

以上

【訂正後】



平成25年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成25年2月8日

上場会社名 株式会社 雪国まいたけ 上場取引所 東  
 コード番号 1378 URL <http://www.maitake.co.jp/>  
 代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 大平 喜信  
 問合せ先責任者（役職名） 取締役兼上席執行役員管理本部長（氏名） 海野 光夫 TEL (025) 778-0111  
 四半期報告書提出予定日 平成25年2月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第3四半期の連結業績（平成24年4月1日～平成24年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第3四半期	19,379	4.0	<u>△580</u>	—	<u>△1,264</u>	—	<u>△1,436</u>	—
24年3月期第3四半期	18,626	△7.2	<u>△2,689</u>	—	<u>△3,288</u>	—	<u>△1,892</u>	—

(注) 包括利益 25年3月期第3四半期 △1,438百万円(-%) 24年3月期第3四半期 △1,937百万円(-%)

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	
	円	銭	円	銭
25年3月期第3四半期	<u>△40</u>	<u>31</u>	—	—
24年3月期第3四半期	<u>△52</u>	<u>32</u>	—	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率
	百万円		百万円		%
25年3月期第3四半期	<u>39,471</u>		<u>1,091</u>		<u>2.6</u>
24年3月期	<u>39,503</u>		<u>2,672</u>		<u>6.6</u>

(参考) 自己資本 25年3月期第3四半期 1,033百万円 24年3月期 2,606百万円

2. 配当の状況

	年間配当金							
	第1四半期末		第2四半期末		第3四半期末	期末	合計	
	円	銭	円	銭	円	銭	円	銭
24年3月期	—		0	00	—		10	00
25年3月期	—		0	00	—			
25年3月期(予想)							(未定)	(未定)

(注) 1 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有  
 25年3月期の期末配当予想額につきましては、現時点では「未定」であります。詳細につきましては、本日公表の「平成25年3月期通期業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2 24年3月期期末配当金の内訳 普通配当 4円00銭 記念配当 6円00銭

3. 平成25年3月期の連結業績予想（平成24年4月1日～平成25年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	26,700	2.5	<u>△370</u>	—	<u>△1,290</u>	—	<u>△1,870</u>	—	<u>△52</u>	<u>48</u>

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有  
 詳細につきましては、本日公表の「平成25年3月期通期業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 有

(注) 詳細は、添付資料P. 4「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 無
- ② ①以外の会計方針の変更： 有
- ③ 会計上の見積りの変更： 有
- ④ 修正再表示： 無

(注) 「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第10条の5に該当するものであります。詳細は、添付資料P. 4「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年3月期3Q	38,890,375株	24年3月期	38,890,375株
② 期末自己株式数	25年3月期3Q	3,259,473株	24年3月期	3,259,453株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	25年3月期3Q	35,630,907株	24年3月期3Q	36,182,189株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表に対するレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	4
3. 四半期連結財務諸表 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	9
(4) 継続企業の前提に関する注記 .....	10
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	10
(6) 重要な後発事象 .....	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の復旧・復興需要を背景に景気の緩やかな回復過程を辿りましたが、欧州債務危機を背景とした金融市場不安による円高の長期化、尖閣問題を契機とした日中ビジネスの冷却等、景気の先行きは不透明な状況が続いてまいりました。

一方、昨年12月の政権交代による金融緩和政策の結果、円安が急速に進み、輸出企業を中心に景気の回復への期待感が高まりました。食品業界におきましては、デフレ下で一般消費者の財布の紐は一層固くなり、食料品の低価格化が一段と進行いたしました。

このような状況の中、当社グループは、最需要期である第3四半期において、主力商品である、まいたけ、えりんぎ、ぶなしめじの得意先への拡販に努めてまいりました。

前々期に始めました、ぶなしめじの新菌による新生産体制は、前期に当社経営に重大な損害を与えましたが、その原因となった菌及び生産設備の問題は、今上期を通じてほぼ解消されました。これにより、損害の挽回を図るべく当第3四半期に臨みましたが、異常な高温のため需要が全く振るわず、過去最高の販売量を記録したものの、期待した成果を上げることができませんでした。

まいたけにつきましては、デフレ下の需要低迷の中で、市場単価は大きく下落しましたが、当社まいたけの優位性により、その下落幅を抑えることができました。

えりんぎにつきましては、前期より価格の低下が始まり、今期も価格がとれない状況が続いており、品質とコストの一層の改善に努めてまいります。

また、もやし事業については、デフレ下で需要は堅調に推移いたしました。これに加えて、バングラデシュ人民共和国で同国の貧困層の解消の一助になればと始めました、もやし原料の緑豆栽培は、大規模栽培に成功し、12月にその緑豆の初輸入をいたしました。今後は、栽培面積の拡大により、同国の貧困問題の解決と、緑豆の安定調達に努めてまいります。

カット野菜事業は、消費者の利便性への理解が進み、今後は更なる拡販のための体制づくりを迅速に進めてまいります。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は193億79百万円(前年同四半期比4.0%増)、営業損失は5億80百万円(前年同四半期は26億89百万円の損失)、経常損失は12億64百万円(前年同四半期は32億88百万円の損失)、四半期純損失は14億36百万円(前年同四半期は18億92百万円の損失)となりました。

セグメントの状況は次のとおりであります。

セグメント	連結売上高 (百万円)	前年同四半期比 (%)
まいたけ	6,824	93.5
えりんぎ	2,336	89.5
ぶなしめじ	3,886	153.4
その他生茸	436	86.6
生茸計	13,484	104.1
加工食品	950	111.0
茸計	14,435	104.6
もやし・カット野菜	3,317	102.9
その他食品	989	104.5
食品計	18,742	104.3
その他	637	98.2
合計	19,379	104.0

#### ①茸

国内生茸の販売は、前述のとおり消費が低迷する中で、最需要期の秋口の気温が高めに推移したことや、野菜の豊作により茸の需要が盛り上がり、販売単価の下落に拍車をかけ、まいたけ、えりんぎは、前年同四半期に比べ販売数量は増加したものの、販売単価は大きく割り込み、売上高は減少いたしました。また、ぶなしめじにつきましては、ようやく品質が安定的に改善し、前期比較で販売数量・販売単価ともに上回りましたが、計画に対しては大幅に下回り、12月中旬以降販売単価は改善したものの、計画売上高の達成には至りませんでした。

中国吉林省長春市で生産・販売するえのき茸につきましては、尖閣問題及び市場の一時的な供給過剰により、売上高は減少いたしました。中国における茸のマーケットは大きく、今後エリア別にマーケットの分析のスピードを上げ、最適生産・最適販売を進めてまいります。

以上により、茸の売上高は144億35百万円(前年同四半期比4.6%増)となりました。

## ②もやし・カット野菜

もやしは、前期の震災復興需要の反動で売上高は減少しましたが、カット野菜はその利便性と環境にやさしい商品性に対する理解等の高まりにより、雪国やさい革命シリーズの主力商品である「きのこ大好きもやしMIX」「きのこ大好きキャベツMIX」「きのこ大好き白菜MIX」「きのこ大好きニラ・もやしMIX」の販売が好調に推移し、カット野菜の売上高は22億44百万円（前年同四半期比15.8%増）となりました。

以上により、もやし・カット野菜の売上高は33億17百万円（前年同四半期比2.9%増）となりました。

## ③その他食品・その他

その他食品においては、納豆・健康食品・その他仕入商品の売上高が増加となり、その他食品の売上高は9億89百万円（前年同四半期比4.5%増）となりました。

その他の売上高は6億37百万円（前年同四半期比1.8%減）となりました。

## (2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて32百万円減少し、394億71百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べて8億71百万円増加し、93億95百万円となりました。これは主に、現金及び預金が4億6百万円、受取手形及び売掛金が5億18百万円増加したこと等によるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて8億86百万円減少し、300億55百万円となりました。これは主に、建物及び構築物が4億3百万円、投資その他の資産（その他）に含まれる関係会社出資金が6億1百万円減少したこと等によるものであります。

負債の部では、流動負債が前連結会計年度末に比べて54億59百万円増加し、221億24百万円となりました。これは主に、短期借入金が55億39百万円増加したこと等によるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて39億11百万円減少し、162億54百万円となりました。これは主に、社債が12億14百万円、長期借入金が21億56百万円及び固定負債（その他）に含まれる長期未払金が2億80百万円減少したこと等によるものであります。

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて15億80百万円減少し、10億91百万円となりました。これは主に、利益剰余金が15億70百万円減少したこと等によるものであります。

## (キャッシュ・フローについて)

当第3四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前年同四半期末と比較して3億64百万円減少し、15億65百万円となりました。

当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

### ①営業活動によるキャッシュ・フロー

当第3四半期連結累計期間における営業活動による資金の支出は3億54百万円（前年同四半期比83.4%減）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純損失13億13百万円の計上、減価償却費及びその他の償却費13億50百万円、支払利息5億円、売上債権の増加額5億11百万円、仕入債務の増加額3億67百万円等によるものであります。

### ②投資活動によるキャッシュ・フロー

当第3四半期連結累計期間における投資活動による資金の支出は11億9百万円（前年同四半期比63.4%減）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出15億46百万円、関係会社出資金の売却による収入5億23百万円等によるものであります。

### ③財務活動によるキャッシュ・フロー

当第3四半期連結累計期間における財務活動による資金の収入は18億23百万円（前年同四半期比61.8%減）となりました。これは主に、短期借入金の純増加額55億62百万円、長期借入金の返済による支出39億26百万円等によるものであります。

## (3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成25年3月期の業績予想につきましては、品質が安定的に改善したぶなしめじが、最需要期である第3四半期に過去最高の販売数量を記録したものの、まいたけ・えりんぎを含む茸全般について、最需要期の9月から10月半ばにかけての気温が高い状態で推移したことや、デフレ下の需要低迷という市況悪化による販売単価・販売数量の落ち込み等により、売上高は大きく計画を下回ったことにより、平成24年11月2日に公表しました平成25年3月期通期業績予想値を下回る見込みであります。

詳細につきましては、本日公表の「平成25年3月期通期業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照下さい。

## 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

### （1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

### （2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

#### （税金費用の計算）

税金費用については、「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」第19項の規定により、「中間財務諸表等における税効果会計に関する実務指針」第12項（法定実効税率を使用する方法）に準じて計算しております。

### （3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

#### （有形固定資産の減価償却方法の変更）

従来、当社及び国内子会社は、有形固定資産の減価償却方法について定率法（ただし、平成10年4月1日以後に取得した建物（建物附属設備は除く）と、それに対する資本的支出及びリース資産については定額法）を採用していましたが、第1四半期連結会計期間より全ての有形固定資産について定額法に変更しております。

この変更は、主要な商品である茸の収穫実績を考慮し、生産数の急激な増減はなく安定的に生産されており、現有する茸生産設備や建物等について維持コストの見直しを行った結果、著しい陳腐化や物理的劣化が発生しにくいことが判明したため、時の経過に応じて均等に償却することがより適正な期間損益を反映できると判断したものであります。

これにより、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間の売上総利益は592百万円増加、営業損失は617百万円、経常損失及び税金等調整前四半期純損失はそれぞれ619百万円減少しております。

#### （売上計上基準の変更）

従来、当社グループの売上計上基準については、出荷基準を採用していましたが、第1四半期連結会計期間より着荷基準に変更しております。

この変更は、売上計上に関する確実性を再検討した結果、着荷基準を採用することにより、売上の計上に関し客観性並びに確実性が高まり、売上の実態をより適切に反映させることができると判断したものであります。

なお、この変更による影響額は軽微であるため、遡及適用は行っておりません。

### 3. 四半期連結財務諸表

#### (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,195	1,601
受取手形及び売掛金	2,622	3,141
商品及び製品	1,287	980
仕掛品	1,864	1,993
原材料及び貯蔵品	684	810
繰延税金資産	<u>297</u>	<u>230</u>
その他	573	639
貸倒引当金	<u>△1</u>	<u>△1</u>
流動資産合計	<u>8,524</u>	<u>9,395</u>
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	<u>12,986</u>	<u>12,583</u>
土地	<u>6,770</u>	<u>6,763</u>
その他（純額）	7,464	7,469
有形固定資産合計	<u>27,221</u>	<u>26,816</u>
無形固定資産	419	441
投資その他の資産		
その他	<u>3,399</u>	<u>2,893</u>
貸倒引当金	<u>△98</u>	<u>△96</u>
投資その他の資産合計	<u>3,300</u>	<u>2,797</u>
固定資産合計	<u>30,942</u>	<u>30,055</u>
繰延資産	36	19
資産合計	<u>39,503</u>	<u>39,471</u>

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	959	1,275
短期借入金	10,001	15,541
未払法人税等	76	88
引当金	186	26
その他	5,440	5,193
流動負債合計	<u>16,665</u>	<u>22,124</u>
固定負債		
社債	3,600	2,385
長期借入金	14,181	12,024
退職給付引当金	48	77
役員退職慰労引当金	57	—
その他	2,278	1,766
固定負債合計	<u>20,166</u>	<u>16,254</u>
負債合計	<u>36,831</u>	<u>38,379</u>
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,605	1,605
資本剰余金	2,262	2,262
利益剰余金	458	△1,111
自己株式	△1,514	△1,514
株主資本合計	<u>2,811</u>	<u>1,241</u>
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△8	△13
繰延ヘッジ損益	△30	△26
為替換算調整勘定	△167	△168
その他の包括利益累計額合計	<u>△205</u>	<u>△208</u>
新株予約権	64	56
少数株主持分	1	1
純資産合計	<u>2,672</u>	<u>1,091</u>
負債純資産合計	<u>39,503</u>	<u>39,471</u>

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
売上高	18,626	19,379
売上原価	15,071	14,749
売上総利益	3,555	4,630
販売費及び一般管理費		
広告宣伝費及び販売促進費	903	298
運賃	1,799	1,925
報酬及び給料手当	1,282	1,081
賞与引当金繰入額	16	5
役員退職慰労引当金繰入額	9	6
雑費	2,233	1,894
販売費及び一般管理費合計	6,244	5,210
営業損失(△)	△2,689	△580
営業外収益		
受取利息	1	1
デリバティブ収益	—	3
固定資産賃貸料	61	60
為替差益	—	46
雑収入	29	30
営業外収益合計	91	142
営業外費用		
支払利息	447	500
雑損失	242	326
営業外費用合計	690	827
経常損失(△)	△3,288	△1,264
特別利益		
固定資産売却益	1	5
負ののれん発生益	23	—
新株予約権戻入益	11	14
関係会社出資金売却益	—	71
特別利益合計	36	91
特別損失		
固定資産売却損	9	0
固定資産除却損	4	21
投資有価証券評価損	2	—
関係会社出資金売却損	—	63
損害賠償金	—	49
減損損失	6	6
特別損失合計	22	140
税金等調整前四半期純損失(△)	△3,275	△1,313
法人税等	△1,406	122
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△1,868	△1,436
少数株主利益	24	0
四半期純損失(△)	△1,892	△1,436

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	<u>△1,868</u>	<u>△1,436</u>
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△2	△4
繰延ヘッジ損益	△27	3
為替換算調整勘定	△38	△1
その他の包括利益合計	<u>△68</u>	<u>△2</u>
四半期包括利益	<u>△1,937</u>	<u>△1,438</u>
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	<u>△1,963</u>	<u>△1,438</u>
少数株主に係る四半期包括利益	26	0

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失(△)	<u>△3,275</u>	<u>△1,313</u>
減価償却費及びその他の償却費	1,904	<u>1,350</u>
賞与引当金の増減額(△は減少)	△221	△160
減損損失	<u>6</u>	<u>6</u>
支払利息	447	500
売上債権の増減額(△は増加)	△1,108	△511
たな卸資産の増減額(△は増加)	△41	54
仕入債務の増減額(△は減少)	400	367
その他	<u>396</u>	<u>19</u>
小計	<u>△1,491</u>	<u>313</u>
利息の支払額	△420	△469
法人税等の支払額	△183	△51
その他の支出	△44	△147
営業活動によるキャッシュ・フロー	<u>△2,141</u>	<u>△354</u>
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△3,184	△1,546
少数株主からの関係会社出資金の取得による支出	△177	—
関係会社の減資による収入	161	—
関係会社出資金の売却による収入	—	523
その他	168	△86
投資活動によるキャッシュ・フロー	<u>△3,031</u>	<u>△1,109</u>
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	4,481	5,562
長期借入れによる収入	4,282	1,740
長期借入金の返済による支出	△3,360	△3,926
社債の発行による収入	1,267	—
社債の償還による支出	△992	△1,172
自己株式の取得による支出	△162	△0
配当金の支払額	△361	△133
その他	△373	△246
財務活動によるキャッシュ・フロー	<u>4,780</u>	<u>1,823</u>
現金及び現金同等物に係る換算差額	△23	39
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	<u>△415</u>	<u>399</u>
現金及び現金同等物の期首残高	2,344	1,165
現金及び現金同等物の四半期末残高	<u>1,929</u>	<u>1,565</u>

(4) 継続企業の前提に関する注記  
該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記  
該当事項はありません。

(6) 重要な後発事象  
該当事項はありません。

【訂正前】



平成25年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成25年2月8日

上場会社名 株式会社 雪国まいたけ 上場取引所 東  
 コード番号 1378 URL <http://www.maitake.co.jp/>  
 代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 大平 喜信  
 問合せ先責任者（役職名） 取締役兼上席執行役員管理本部長（氏名） 海野 光夫 TEL (025) 778-0111  
 四半期報告書提出予定日 平成25年2月14日 配当支払開始予定日 -  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第3四半期の連結業績（平成24年4月1日～平成24年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第3四半期	19,379	4.0	<u>△768</u>	—	<u>△1,452</u>	—	<u>△1,547</u>	—
24年3月期第3四半期	18,626	△7.2	<u>△2,215</u>	—	<u>△2,813</u>	—	<u>△1,602</u>	—

(注) 包括利益 25年3月期第3四半期 △1,549百万円(—%) 24年3月期第3四半期 △1,646百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	
	円	銭	円	銭
25年3月期第3四半期	<u>△43</u>	43	—	—
24年3月期第3四半期	<u>△44</u>	30	—	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率
	百万円		百万円		%
25年3月期第3四半期	<u>40,532</u>		<u>2,477</u>		<u>6.0</u>
24年3月期	<u>40,484</u>		<u>4,169</u>		<u>10.1</u>

(参考) 自己資本 25年3月期第3四半期 2,418百万円 24年3月期 4,102百万円

2. 配当の状況

	年間配当金					
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計	
	円	銭	円	銭	円	銭
24年3月期	—	0	00	—	10	00
25年3月期	—	0	00	—		
25年3月期(予想)				(未定)	(未定)	

(注) 1 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有  
 25年3月期の期末配当予想額につきましては、現時点では「未定」であります。詳細につきましては、本日公表の「平成25年3月期通期業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2 24年3月期期末配当金の内訳 普通配当 4円00銭 記念配当 6円00銭

3. 平成25年3月期の連結業績予想（平成24年4月1日～平成25年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	26,700	2.5	<u>△370</u>	—	<u>△1,290</u>	—	<u>△1,870</u>	—	<u>△52</u>	48

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有  
 詳細につきましては、本日公表の「平成25年3月期通期業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 有

(注) 詳細は、添付資料P. 4「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 無
- ② ①以外の会計方針の変更： 有
- ③ 会計上の見積りの変更： 有
- ④ 修正再表示： 無

(注) 「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第10条の5に該当するものであります。詳細は、添付資料P. 4「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年3月期3Q	38,890,375株	24年3月期	38,890,375株
② 期末自己株式数	25年3月期3Q	3,259,473株	24年3月期	3,259,453株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	25年3月期3Q	35,630,907株	24年3月期3Q	36,182,189株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表に対するレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	4
3. 四半期連結財務諸表 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	9
(4) 継続企業の前提に関する注記 .....	10
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	10
(6) 重要な後発事象 .....	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の復旧・復興需要を背景に景気の緩やかな回復過程を辿りましたが、欧州債務危機を背景とした金融市場不安による円高の長期化、尖閣問題を契機とした日中ビジネスの冷却等、景気の先行きは不透明な状況が続いてまいりました。

一方、昨年12月の政権交代による金融緩和政策の結果、円安が急速に進み、輸出企業を中心に景気の回復への期待感が高まりました。食品業界におきましては、デフレ下で一般消費者の財布の紐は一層固くなり、食料品の低価格化が一段と進行いたしました。

このような状況の中、当社グループは、最需要期である第3四半期において、主力商品である、まいたけ、えりんぎ、ぶなしめじの得意先への拡販に努めてまいりました。

前々期に始めました、ぶなしめじの新菌による新生産体制は、前期に当社経営に重大な損害を与えましたが、その原因となった菌及び生産設備の問題は、今上期を通じてほぼ解消されました。これにより、損害の挽回を図るべく当第3四半期に臨みましたが、異常な高温のため需要が全く振るわず、過去最高の販売量を記録したものの、期待した成果を上げることができませんでした。

まいたけにつきましては、デフレ下の需要低迷の中で、市場単価は大きく下落しましたが、当社まいたけの優位性により、その下落幅を抑えることができました。

えりんぎにつきましては、前期より価格の低下が始まり、今期も価格がとれない状況が続いており、品質とコストの一層の改善に努めてまいります。

また、もやし事業については、デフレ下で需要は堅調に推移いたしました。これに加えて、バングラデシュ人民共和国で同国の貧困層の解消の一助になればと始めました、もやし原料の緑豆栽培は、大規模栽培に成功し、12月にその緑豆の初輸入をいたしました。今後は、栽培面積の拡大により、同国の貧困問題の解決と、緑豆の安定調達に努めてまいります。

カット野菜事業は、消費者の利便性への理解が進み、今後は更なる拡販のための体制づくりを迅速に進めてまいります。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は193億79百万円(前年同四半期比4.0%増)、営業損失は7億68百万円(前年同四半期は22億15百万円の損失)、経常損失は14億52百万円(前年同四半期は28億13百万円の損失)、四半期純損失は15億47百万円(前年同四半期は16億2百万円の損失)となりました。

セグメントの状況は次のとおりであります。

セグメント	連結売上高 (百万円)	前年同四半期比 (%)
まいたけ	6,824	93.5
えりんぎ	2,336	89.5
ぶなしめじ	3,886	153.4
その他生茸	436	86.6
生茸計	13,484	104.1
加工食品	950	111.0
茸計	14,435	104.6
もやし・カット野菜	3,317	102.9
その他食品	989	104.5
食品計	18,742	104.3
その他	637	98.2
合計	19,379	104.0

#### ①茸

国内生茸の販売は、前述のとおり消費が低迷する中で、最需要期の秋口の気温が高めに推移したことや、野菜の豊作により茸の需要が盛り上がり、販売単価の下落に拍車をかけ、まいたけ、えりんぎは、前年同四半期に比べ販売数量は増加したものの、販売単価は大きく割り込み、売上高は減少いたしました。また、ぶなしめじにつきましては、ようやく品質が安定的に改善し、前期比較で販売数量・販売単価ともに上回りましたが、計画に対しては大幅に下回り、12月中旬以降販売単価は改善したものの、計画売上高の達成には至りませんでした。

中国吉林省長春市で生産・販売するえのき茸につきましては、尖閣問題及び市場の一時的な供給過剰により、売上高は減少いたしました。中国における茸のマーケットは大きく、今後エリア別にマーケットの分析のスピードを上げ、最適生産・最適販売を進めてまいります。

以上により、茸の売上高は144億35百万円(前年同四半期比4.6%増)となりました。

## ②もやし・カット野菜

もやしは、前期の震災復興需要の反動で売上高は減少しましたが、カット野菜はその利便性と環境にやさしい商品性に対する理解等の高まりにより、雪国やさい革命シリーズの主力商品である「きのこ大好きもやしMIX」「きのこ大好きキャベツMIX」「きのこ大好き白菜MIX」「きのこ大好きニラ・もやしMIX」の販売が好調に推移し、カット野菜の売上高は22億44百万円（前年同四半期比15.8%増）となりました。

以上により、もやし・カット野菜の売上高は33億17百万円（前年同四半期比2.9%増）となりました。

## ③その他食品・その他

その他食品においては、納豆・健康食品・その他仕入商品の売上高が増加となり、その他食品の売上高は9億89百万円（前年同四半期比4.5%増）となりました。

その他の売上高は6億37百万円（前年同四半期比1.8%減）となりました。

## (2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて48百万円増加し、405億32百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べて9億41百万円増加し、93億66百万円となりました。これは主に、現金及び預金が4億6百万円、受取手形及び売掛金が5億18百万円増加したこと等によるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて8億75百万円減少し、311億46百万円となりました。これは主に、建物及び構築物が4億4百万円、投資その他の資産（その他）に含まれる関係会社出資金が6億1百万円減少したこと等によるものであります。

負債の部では、流動負債が前連結会計年度末に比べて54億65百万円増加し、218億60百万円となりました。これは主に、短期借入金が55億39百万円増加したこと等によるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて37億24百万円減少し、161億94百万円となりました。これは主に、社債が12億14百万円、長期借入金が21億56百万円減少したこと等によるものであります。

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて16億91百万円減少し、24億77百万円となりました。これは主に、利益剰余金が16億81百万円減少したこと等によるものであります。

## (キャッシュ・フローについて)

当第3四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前年同四半期末と比較して3億64百万円減少し、15億65百万円となりました。

当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

### ①営業活動によるキャッシュ・フロー

当第3四半期連結累計期間における営業活動による資金の支出は3億54百万円（前年同四半期比83.4%減）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純損失14億94百万円の計上、減価償却費及びその他の償却費13億51百万円、支払利息5億円、売上債権の増加額5億11百万円、仕入債務の増加額3億67百万円等によるものであります。

### ②投資活動によるキャッシュ・フロー

当第3四半期連結累計期間における投資活動による資金の支出は11億9百万円（前年同四半期比63.4%減）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出15億46百万円、関係会社出資金の売却による収入5億23百万円等によるものであります。

### ③財務活動によるキャッシュ・フロー

当第3四半期連結累計期間における財務活動による資金の収入は18億23百万円（前年同四半期比61.8%減）となりました。これは主に、短期借入金の純増加額55億62百万円、長期借入金の返済による支出39億26百万円等によるものであります。

## (3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成25年3月期の業績予想につきましては、品質が安定的に改善したぶなしめじが、最需要期である第3四半期に過去最高の販売数量を記録したものの、まいたけ・えりんぎを含む茸全般について、最需要期の9月から10月半ばにかけての気温が高い状態で推移したことや、デフレ下の需要低迷という市況悪化による販売単価・販売数量の落ち込み等により、売上高は大きく計画を下回ったことにより、平成24年11月2日に公表しました平成25年3月期通期業績予想値を下回る見込みであります。

詳細につきましては、本日公表の「平成25年3月期通期業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照下さい。

## 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

### （1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

### （2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

#### （税金費用の計算）

税金費用については、「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」第19項の規定により、「中間財務諸表等における税効果会計に関する実務指針」第12項（法定実効税率を使用する方法）に準じて計算しております。

### （3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

#### （有形固定資産の減価償却方法の変更）

従来、当社及び国内子会社は、有形固定資産の減価償却方法について定率法（ただし、平成10年4月1日以後に取得した建物（建物附属設備は除く）と、それに対する資本的支出及びリース資産については定額法）を採用していましたが、第1四半期連結会計期間より全ての有形固定資産について定額法に変更しております。

この変更は、主要な商品である茸の収穫実績を考慮し、生産数の急激な増減はなく安定的に生産されており、現有する茸生産設備や建物等について維持コストの見直しを行った結果、著しい陳腐化や物理的劣化が発生しにくいことが判明したため、時の経過に応じて均等に償却することがより適正な期間損益を反映できると判断したものであります。

これにより、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間の売上総利益は592百万円増加、営業損失は617百万円、経常損失及び税金等調整前四半期純損失はそれぞれ619百万円減少しております。

#### （売上計上基準の変更）

従来、当社グループの売上計上基準については、出荷基準を採用していましたが、第1四半期連結会計期間より着荷基準に変更しております。

この変更は、売上計上に関する確実性を再検討した結果、着荷基準を採用することにより、売上の計上に関し客観性並びに確実性が高まり、売上の実態をより適切に反映させることができると判断したものであります。

なお、この変更による影響額は軽微であるため、遡及適用は行っておりません。

### 3. 四半期連結財務諸表

#### (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,195	1,601
受取手形及び売掛金	2,622	3,141
商品及び製品	1,287	980
仕掛品	1,864	1,993
原材料及び貯蔵品	684	810
繰延税金資産	<u>198</u>	<u>201</u>
その他	573	639
貸倒引当金	<u>△1</u>	<u>△1</u>
流動資産合計	<u>8,425</u>	<u>9,366</u>
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	<u>13,002</u>	<u>12,598</u>
土地	<u>7,918</u>	<u>7,924</u>
その他（純額）	7,464	7,469
有形固定資産合計	<u>28,386</u>	<u>27,991</u>
無形固定資産	419	441
投資その他の資産		
その他	<u>3,314</u>	<u>2,809</u>
貸倒引当金	<u>△98</u>	<u>△96</u>
投資その他の資産合計	<u>3,216</u>	<u>2,712</u>
固定資産合計	<u>32,021</u>	<u>31,146</u>
繰延資産	36	19
資産合計	<u>40,484</u>	<u>40,532</u>

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	959	1,275
短期借入金	10,001	15,541
未払法人税等	76	88
引当金	186	26
その他	<u>5,171</u>	<u>4,929</u>
流動負債合計	<u>16,395</u>	<u>21,860</u>
固定負債		
社債	3,600	2,385
長期借入金	14,181	12,024
退職給付引当金	48	77
役員退職慰労引当金	57	—
その他	<u>2,032</u>	<u>1,706</u>
固定負債合計	<u>19,919</u>	<u>16,194</u>
負債合計	<u>36,315</u>	<u>38,055</u>
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,605	1,605
資本剰余金	2,262	2,262
利益剰余金	<u>1,954</u>	<u>273</u>
自己株式	$\Delta 1,514$	$\Delta 1,514$
株主資本合計	<u>4,308</u>	<u>2,627</u>
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	$\Delta 8$	$\Delta 13$
繰延ヘッジ損益	$\Delta 30$	$\Delta 26$
為替換算調整勘定	$\Delta 167$	$\Delta 168$
その他の包括利益累計額合計	<u><math>\Delta 205</math></u>	<u><math>\Delta 208</math></u>
新株予約権	64	56
少数株主持分	1	1
純資産合計	<u>4,169</u>	<u>2,477</u>
負債純資産合計	<u>40,484</u>	<u>40,532</u>

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
売上高	18,626	19,379
売上原価	15,071	14,749
売上総利益	3,555	4,630
販売費及び一般管理費		
広告宣伝費及び販売促進費	427	485
運賃	1,799	1,925
報酬及び給料手当	1,282	1,081
賞与引当金繰入額	16	5
役員退職慰労引当金繰入額	9	6
雑費	2,235	1,895
販売費及び一般管理費合計	5,770	5,398
営業損失(△)	△2,215	△768
営業外収益		
受取利息	1	1
デリバティブ収益	—	3
固定資産賃貸料	61	60
為替差益	—	46
雑収入	29	30
営業外収益合計	91	142
営業外費用		
支払利息	447	500
雑損失	242	326
営業外費用合計	689	827
経常損失(△)	△2,813	△1,452
特別利益		
固定資産売却益	1	5
負ののれん発生益	23	—
新株予約権戻入益	11	14
関係会社出資金売却益	—	71
特別利益合計	36	91
特別損失		
固定資産売却損	9	0
固定資産除却損	4	21
投資有価証券評価損	2	—
関係会社出資金売却損	—	63
損害賠償金	—	49
特別損失合計	16	134
税金等調整前四半期純損失(△)	△2,793	△1,494
法人税等	△1,214	52
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△1,578	△1,547
少数株主利益	24	0
四半期純損失(△)	△1,602	△1,547

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	<u>△1,578</u>	<u>△1,547</u>
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△2	△4
繰延ヘッジ損益	△27	3
為替換算調整勘定	△38	△1
その他の包括利益合計	<u>△68</u>	<u>△2</u>
四半期包括利益	<u>△1,646</u>	<u>△1,549</u>
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	<u>△1,673</u>	<u>△1,550</u>
少数株主に係る四半期包括利益	26	0

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失(△)	<u>△2,793</u>	<u>△1,494</u>
減価償却費及びその他の償却費	1,904	<u>1,351</u>
賞与引当金の増減額(△は減少)	△221	△160
支払利息	447	500
売上債権の増減額(△は増加)	△1,108	△511
たな卸資産の増減額(△は増加)	△41	54
仕入債務の増減額(△は減少)	400	367
その他	<u>△78</u>	<u>206</u>
小計	<u>△1,491</u>	<u>313</u>
利息の支払額	△420	△469
法人税等の支払額	△183	△51
その他の支出	△44	△147
営業活動によるキャッシュ・フロー	<u>△2,141</u>	<u>△354</u>
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△3,184	△1,546
少数株主からの関係会社出資金の取得による支出	△177	—
関係会社の減資による収入	161	—
関係会社出資金の売却による収入	—	523
その他	168	△86
投資活動によるキャッシュ・フロー	<u>△3,031</u>	<u>△1,109</u>
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	4,481	5,562
長期借入れによる収入	4,282	1,740
長期借入金の返済による支出	△3,360	△3,926
社債の発行による収入	1,267	—
社債の償還による支出	△992	△1,172
自己株式の取得による支出	△162	△0
配当金の支払額	△361	△133
その他	△373	△246
財務活動によるキャッシュ・フロー	<u>4,780</u>	<u>1,823</u>
現金及び現金同等物に係る換算差額	△23	39
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	<u>△415</u>	<u>399</u>
現金及び現金同等物の期首残高	2,344	1,165
現金及び現金同等物の四半期末残高	<u>1,929</u>	<u>1,565</u>

(4) 継続企業の前提に関する注記  
該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記  
該当事項はありません。

(6) 重要な後発事象  
該当事項はありません。